



富山大学学報

昭和33. 9. 1

第14号

目次

関係法令	法律、政令、府令、省令、規則、訓令、法律施行、通知、官庁報告……………1 会計検査院通知……………2 通勤手当の支給について（解説、人事院月報より）……………2
学内規程	学則の一部改正……………3 教育学部学生定員……………3 工学部学生定員……………3 薬学部教授会規程の一部改正……………3 工学部規程の一部改正……………3
人事異動	……………4
学内諸報	火災の予防について……………8 会計検査院の实地検査……………9 国有財産の实地監査……………9 本部庁舎の竣工、移転……………9 内地研究員の決定派遣……………10 長期研修者派遣……………11 小林、小沢、竹内の三教官海外渡航……………11 科学研究費等の採択決定……………11 科学教育研究室の開設……………12 単位修得試験の実施……………13 夏季全日制認定講習の実施……………13 小林、木村両教官の学位取得……………14 学位取得者現況一覧……………14 松崎教授の逝去……………15 故松崎教授に対する叙位叙勲……………15 田屋事務長の逝去……………15 黒田氏、松井建設の表彰……………15 大学後援会定期総会……………15 佐伯富男氏の講演……………15 学生の体育競技……………16 第四回大学祭……………16 レクレーション便り……………16 共済組合北陸、東海地区体育大会……………16 富山地区公務員R連盟球技体育大会……………17
部局情報	
文理学部	文理学部日誌……………17
教育学部	文理学部と併設の教育学部の学部長会議……………17 教育学部日誌……………18
経済学部	経済学部学生就職概況……………18
特別寄稿	米国の産学協同を視察して……………19 工学部 横山辰雄
主要日誌	……………20

関係法令

法律

- 第56号 学校健康法 33. 4. 10官報
- 第87号 一般職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律 4. 25官報
- 第113号 文部省設置法の一部を改正する法律 5. 1官報
- 第128号 国家公務員共済組合法 5. 1官報
号外33
- 第129号 国家公務員共済組合法の長期給付に関する施行法 5. 1官報
号外33
- 第130号 国家公務員等退職手当暫定措置法の一部を改正する法律 5. 1官報
号外33
- 第162号 放射線障害防止の技術的基準に関する法律 5. 21官報

政令

- 第89号 日本育英会法施行令の一部を改正する政令 4. 25官報
- 第98号 文部省組織令等の一部を改正する政令 5. 1官報
- 第99号 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令（別表参照） 5. 29官報
- 第144号 恩給給与規則の一部を改正する政令 5. 29官報
- 第149号 国家公務員等退職手当暫定措置施行令の一部を改正する政令 5. 30官報
- 第159号 恩給給与規則の一部を改正する政令 6. 2官報
- 第207号 国家公務員共済組合法施行令 6. 30官報
- 第230号 予算決算及び会計令の一部を改正する政令 7. 25官報

府令

- 第42号 恩給法等の一部を改正する総理府令 5. 29官報
- 第43号 恩給法等の一部を改正する法律の規定により改正及び請求手続に関する総理府令 5. 29官報
- 第47号 恩給給与細則の一部を改正する総理府令 6. 2官報

省令

- 文部省令第13号 国立学校設置法施行規則の一部を改正する省令 5. 1. 号外39
- 〃 第17号 日本育英会が特別貸与を行う場合の認定方法に関する省令 5. 1. 号外39
- 〃 第18号 学校保健法施行規則 6. 13官報
- 大蔵省令第15号 国有財産法施行細則の一部を改正する省令 7. 25官報

規則

- 人事院規則 9—5 給与簿の一部を改正する規則 4. 25官報
号外32
- 〃 9—7 俸給等の支給の一部を改正する規則 4. 25官報
号外32
- 〃 9—24 通勤手当に関する規則（別載解説参照） 4. 25官報
号外32

富山大学
一二号

- 〃 9-8 初任給昇格、昇給等の基準の一部を改正する規則 5. 26官報
- 〃 9-17 俸給の特別調整額の一部改正する規則 7. 12官報
- 会計検査院第3号 計算証明規則の一部を改正する規則 6. 16官報

訓 令

- 文部省所管物品管理事務取扱規程の一部改正について 7. 14官報
- 文部省債権管理事務取扱規程の一部改正について 7. 14官報

法律施行通知

- 国庫出納金等端数計算法の一部を改正する法律の施行に伴う合計事務処理要領について 7. 2 官報
- 国庫出納金等端数計算法の一部を改正する法律の施行について 7. 2 官報

管庁報告

- 人事院公告 昭和33年度国家公務員採用上級試験公告 5. 8 官報
- 人事院公告 昭和33年度国家公務員採用初級試験公告 6. 20官報
- 文部省告示65 昭和33年度単位修得試験実施要綱の一部改正 7. 25官報

政令第99号 国立学校設置法施行令の一部を改正する政令の別表 1

国立大学名	職員定員	国立大学名	職員定員
北海道大学	2,643	東京水産大学	284
北海道学芸大学	781	お茶の水女子大学	306
室蘭工業大学	152	電気通信大学	168
小樽商科大学	109	一橋大学	336
帯広畜産大学	144	横浜国立大学	596
弘前大学	911	新瀉大学	1,473
岩手大学	566	富山大学	514
東北大学	3,828	金沢大学	1,572
秋田大学	458	福井大学	355
山形大学	608	山梨大学	390
福島大学	410	信州大学	1,282
茨城大学	683	岐阜大学	564
宇都宮大学	426	静岡大学	817
群馬大学	1,011	名古屋大学	2,089
埼玉大学	341	愛知学芸大学	539
千葉大学	1,501	名古屋工業大学	260
東京大学	6,178	三重大学	436
東京医科歯科大学	1,099	滋賀大学	303
東京外国語大学	118	京都大学	3,433
東京学芸大学	878	京都学芸大学	313
東京農工大学	293	京都工芸繊維大学	327
東京芸術大学	287	大阪大学	2,622
東京教育大学	1,173	大阪外国語大学	103
東京工業大学	948	大阪学芸大学	641
東京商船大学	232	神戸大学	979

国立大学名	職員定員	国立大学名	職員定員
神戸商船大学	146	愛媛大学	692
奈良学芸大学	245	高知大学	357
奈良女子大学	225	福岡学芸大学	460
和歌山大学	309	九州大学	2,942
鳥取大学	860	九州工業大学	221
島根大学	328	佐賀大学	306
岡山大学	1,409	長崎大学	1,134
広島大学	1,770	熊本大学	2,942
山口大学	673	大分大学	331
徳島大学	955	宮崎大学	456
香川大学	455	鹿児島大学	1,327

会計検査院通知

文部省の計算証明に関する指定の一部改正について
33. 5. 7. 33検 132号

通勤手当の支給について(解説)

解説(人事院月報6月号より)

通勤手当関係の法律(給与法第12条の改正)は、さる4月25日公布施行4月1日に遡つて適用されることとなり、これにともなつて規則、細則、通達がそれぞれ制定、公布されたが、それらの要旨をかいつまんで記すと次のとおりである。

支給範囲と支給額

通勤手当は、次のような職員に対しそれぞれの額が支給される。

1. 徒歩によれば片道2 km 以上ある道のりを交通機関を利用し、運賃を負担して通勤している者に対しては運賃等相当額(人事院規則により定むるところにより算出)から100円を差し引いた額、たゞし600円以上となる場合は600円で打切。(給与法第12条第1項第2項)
2. 「1」の場合で、交通機関によらず、有料道路を通ることによりその料金を負担している者に対しても「1」と同様の額の交通機関と有料道路の両方についてそれぞれ運賃および料金を負担している者に対しても同様である(同上)
3. 徒歩にすれば片道2 km 以上ある道のりを交通機関や有料道路を利用せず、自転車等により通勤しているものに対しては100円(給与法第1条第1項第3項)
4. 交通機関か有料道路を利用し、運賃、料金を負担しさらに自転車等を使用して通勤しているものに対しては自転車等の分は支給しない。
たゞしこの場合の額が100円に満たないときは100円(給与法第12条第1項、第2項)
5. 身体障害者(人事院規則で定める程度であつて各庁

の長が認める者)で歩行困難なため交通機関等を利用している者および離島等から通勤するため交通機関等を利用せざるを得ない者に対しては、その道のりが片道2km未満であつても「1」と同様の額(給与法第12条第1項第2項規則9-24第5条)

支給されない場合

支給範囲内の職員であつても、次のような場合には通勤手当は支給されない。

1. 職員が休職、停職、専従休暇中である場合にはその期間中(給与法第23条、国家公務員法第83条第101条)
2. 職員が出張、休暇、欠勤等のため月の初日から末日まで1日も通勤しない場合には、その月の分(規則9-24第11条)

届出

「支給範囲と支給額」の項にあげた職員は、細則9-24-1の別紙(省略)の通勤届に所要の事項を記入して届けなければならない(規則9-24第3条)この届出が、事実の生じた日から15日を経過した後になると、届出の日から支給されることになるから注意を要する。(規則9-24第10条第2項)ただし、この法律の施行により4月1日から支給を受けることとなる職員等については、径過的に法律施行の日(4月25日)から30日次内に届け出ればよいことになっている。(規則9-24第14条)

運賃等相当額の算出

通勤手当の支給額を決定する基礎となる運賃等の額に相当する額は、運賃、時間、距離等の事情から見て最も経済的であり、合理的であると認められる通常の通勤の径路、方法による運賃等の額によることとなつており、(規則9-24第6条)通勤用定期乗車券を算出の基礎とする場合には通用期間が最も長いもの(3ヶ月をこえるときは3ヶ月)の1ヶ月当りの額により、回数券を算出の基礎とする場合には、ふつう25往復分の額による。(規則9-24第8条)

普通なら歩いて通勤するような近い距離をわざわざ乗り継いでいるようなものは算出の基礎に入れられない。(給実甲第151号条第6条関係)また、職員の住居や勤務官署に最も近い駅から先の方まで乗り越しの定期券をもつていてもその乗り越しの分は計算にいれないことは当然である。

支給方法

通勤手当は翌月払(俸給を月2回に分けて支給する場合は、先の支給定日にまとめて支給される)となつており、その他は、おおむね俸給の支給方法に準じて支給される。(規則9-7第10条の2)

非課税と確認

通勤手当は、非課税扱とされるが、そのこともあり、職員の届出の内容が事実と一致するかどうかについて、定期券や証明となるものの提示を求められることもあり、場合によっては支給額の改訂または、支給停止等の措置のとら

れることもあり得る。(規則9-24第4条第12条)

(給与局給与第三課)

学内規程

学則の一部改正

学則の一部を次のとおり改める。

第9章 学生定員

第50条

教育学部

第一中等教育科	} (4年課程)	580名
第一初等教育科		
第二中等教育科	} (2年課程)	70名
第二初等教育科		

工学部

電気工学科	160名
工業化学科	160名
金属工学科	160名
機械工学科	200名

別表(第1)

工学部機械工学科の講座に機械工学科の第5講座を加える。

付則第1条に次の項を加える。

この学則は昭和33年4月1日から実施する。

付則(昭和33年7月12日改正)

薬学部教授会規程の一部改正

第2条第6項を次のように改正する。

6. 学生の賞罰に関する事項

第3条但書を次のように改正する。

但し第2条7の事項のうち教官の人事及び名誉教授に関しては学部長、教授をもつて構成する会議において審議する。

第7条を次のように改正する。

第7条 教授会は構成員の三分の二以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。

議事は出席者の過半数をもつて決する。

但し緊急の場合は構成員の二分の一以上の出席をもつて議事を開き議決することができる。この場合においては出席者の三分の二以上をもつて決する。

可否同数のときは議長が決するところによる。

教官の人事については出席者の三分の二以上の同意を必要とする。

(付則)

この規程は昭和33年7月12日から施行する。

工学部規程の一部改正

工学部規程別表の一部を下記の通り改する。

別表 金属工学科の

(イ) 専攻科目の

定性定量分析実験2を1に

- (ロ) 専攻科目の終りに
物理化学4を入れ関連科目の物理
化学4を除く
- (ハ) 関連科目と
応用物理学2を3に
- (ニ) 関連科目 応用物理学の次へ

自動制御 2を加える
別表 機械工学科の
関連科目 紡織機械の次へ
金相学2を加える

(付 則)
この規程は昭和33年5月16日から施行する。

~~~~~  
人 事 異 動  
~~~~~

現 官 職	氏 名	異 動 内 容	発令月日
	山 口 聡	臨時筆生(薬学部)に採用する	4. 21
	畠 脩 三	教務員(文理学部)に採用する	5. 1
	岡 本 敏 彦	臨時筆生(薬学部)に採用する	5. 6
	中 井 昇	教務員(薬学部)に採用する	5. 16
	内 山 治 孝	文部教官(教育学部附属中学校教諭)に採用する	6. 1
	水 野 美 須 子	臨時筆生(庶務課タイピスト)に採用する	6. 16
	田 屋 世 一	用務員(薬学部作業員)に採用する	6. 23
	片 山 源 二	事務員(会計課)に採用する	7. 1
	涌 井 芳 朗	臨時筆生(文理学部)に採用する	〃
	野 崎 和 子	臨時筆生(薬学部)に採用する	7. 11
	野 尻 津 喜 夫	臨時筆生(教育学部)に採用する	8. 1
	海 道 勝 稔	文部教官(富山大学助手経済学部)に採用する	8. 11
技術員 (金沢大学医学部附属病院)	大 野 三 代	富山大学工学部(看護婦)に転任させる	5. 1
九州大学講師理学部	田 中 専 一 郎	富山大学教授文理学部に昇任させる	5. 1
教務員(薬学部)	吉 崎 正 雄	助手に昇任させる	5. 16
〃	岩 城 利 一 郎	〃	〃
〃	金 岡 又 雄	〃	〃
〃	田 上 昇 一 郎	〃	〃
助手(工学部)	中 川 孝 之	助教授に昇任させる	6. 16
文理学部厚生補導係長	斎 藤 義 康	教育学部事務長に昇任させる	〃
庶務課課長補佐	泉 田 利 享	薬学部事務長に昇任させる 庶務課庶務係長の併任を解除する	6. 23
工学部庶務係長	鎌 仲 百 之 介	工学部事務長補佐に昇任させる 工学部庶務係長に併任する	〃
文部事務官(庶務課)	野 村 信 生	文理学部厚生補導係長に昇任させる	〃
文部事務官(会計課)	高 松 平 吉	庶務課庶務係長に昇任させる	〃
庶務課人事係長	森 田 弘	庶務課課長補佐に昇任させる 庶務課人事係長に併任する	7. 1
助教授(教育学部)	佐々木 龍 作	教授に昇任させる	8. 1
事務員(庶務課)	土 井 盛 治	文部事務官に任官させる	6. 23
〃(会計課)	川 原 富 雄	〃	〃

事務員(会計課)	堀井貞次	文部事務官に任官させる	6. 23
〃	早崎寛威	〃	〃
〃(教育学部)	高木行則	〃	〃
〃(教育学部)	田中昇	〃	〃
技術員 (文理学部看護婦)	種節子	文理学部看護婦に配置換する(定員内)	4. 1
文部事務官 (庶務課能率係長)	洲崎茂	事務員(庶務課)に配置換する	6. 16
臨時筆生(教育学部)	川井洋子	事務員(教育学部付属幼稚園)に配置換する	〃
〃	野沢行夫	事務員(教育学部)に配置換する	〃
臨時筆生 (庶務課タイピスト)	石黒寿子	技能員(庶務課タイピスト)に配置換する	〃
臨時筆生 (文理学部)	奥村喜代志	技能員(文理学部自動車運転手)に配置換する	〃
用務員 (薬学部作業員)	田近俊之	薬学部作業員に配置換する(定員内)	〃
事務員(庶務課)	松永泰三	教育学部付属中学校に配置換する	6. 23
〃(補導課)	中田ふじえ	教育学部に配置換する	〃
〃(教育学部)	御福富美子	補導課に配置換する	〃
〃(文理学部)	成瀬正夫	会計課に配置換する	〃
〃(附属図書館)	中林邦夫	文理学部に配置換する	〃
〃(会計課)	本田善彦	附属図書館に配置換する	〃
技能員(庶務課電話交換手)	中島菊枝	薬学部に配置換する	〃
〃(薬学部電話交換手)	沖タミ子	経済学部に配置換する	〃
〃(教育学部電話交換手)	高安芳枝	〃	〃
〃(庶務課自動車運転手)	沢本省三	会計課に配置換する	〃
〃	永盛祐介	〃	〃
用務員(教育学部警務員)	赤祖父松輔	〃	〃
〃	山崎鉦治	〃	〃
〃	森田義保	〃	〃
〃	津林繁信	会計課に配置換する	〃
用務員(庶務課作業員)	大坪力蔵	〃	〃
〃	青木敬治	〃	〃
用務員(教育学部作業員)	野田好一	教育学部附属幼稚園に配置換する	6. 24
〃(会計課作業員)	青木敬治	会計課作業員に配置換する(定員内)	7. 16
臨時筆生(薬学部)	宮越一男	事務員(薬学部)に配置換する	〃
事務員(会計課)	今井一子	休職の期間を昭和34年5月7日まで更新する	5. 8
用務員(薬学部作業員)	坂口タツノ	国家公務員法第79条第1号の規定によつて休職にする休職の期間は昭和33年11月30日までとする	6. 1
事務員(文理学部)	原田辰之助	〃 休職の期間は昭和34年3月31日までとする	6. 16
〃(教育学部)	大花恵貫	〃	〃
用務員(教育学部作業員)	中崎由次郎	〃 休職の期間は昭和34年6月15日までとする	〃
技術員(教育学部看護婦)	牛島アヤ	休職の期間を昭和33年12月24日まで更新する	6. 25

事務員 (薬学部)	高森 恵己子	国家公務員法第79条第1号の規定により休職にする休職の期間昭和34年1月15日までとする	7. 16
事務員 (文理学部)	馬場 久夫	辞職を承認する	5. 11
事務員 (薬学部)	佐々 久高	〃	5. 15
文部事務官 (教育学部事務長)	片山 源二	〃	6. 15
事務員 (庶務課)	柄折 健次	〃	6. 16
講師 (工学部)	葉山 益次郎	昭和33年度文部省内地研究員を命ずる	5. 1
助手 (薬学部)	森田 直賢	〃	〃
教授 (教育学部)	佐々 亮	教授 (文理学部) に併任する 任期は昭和33年9月30日までとする	4. 14
教授 (経済学部)	三国 一義	〃	〃
助教授 (教育学部)	白井 芳朗	助教授 (文理学部) に併任する 任期は昭和33年9月30日までとする	〃
〃	林 三雄	〃	〃
〃	吉田 博	〃	〃
〃 (経済学部)	池田 直視	〃	〃
講師 (教育学部)	飯原 藤一	講師 (文理学部) に併任する 任期は昭和33年9月30日までとする	〃
〃	田中 久雄	〃	〃
〃	有沢 一男	〃	〃
助手 (教育学部)	志甫 房枝	助手 (文理学部) に併任する 任期は昭和33年9月30日までとする	〃
教授 (経済学部)	城宝 正治	教授 (文理学部) に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	〃
〃	渡植 彦太郎	〃	〃
助教授 (教育学部)	黒坂 富治	助教授 (教育学部) に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	〃
〃 (経済学部)	石瀬 秀治	〃	〃
講師 (教育学部)	泉 敏郎	講師 (文理学部) に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	〃
〃	金子 基之	〃	〃
文部事務官 (附属図書館薬学部分館長)	村上 清造	助教授 (薬学部) に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	〃
文部事務官 (富山大学施設課長)	山田 啓祐	文部教官 (富山大学講師教育学部) に併任する 任期は昭和35年3月31日までとする	7. 20
	太田 正行	講師 (教育学部) に採用する 任期は昭和34年3月31日までとする	4. 8
	西出 靖夫	〃	〃
	大沢 多美子	〃	〃
	小柳 津三郎	〃	〃
	萩野 啓之助	〃	〃
	斉藤 現常	〃	〃
	石黒 国雄	〃	〃
	鮎谷 喜兵衛	〃	4. 8
	福田 博	講師 (教育学部) に採用する 任期は昭和33年9月30日までとする	〃
	矢後 正之	〃	〃
	岡崎 卯一	〃	〃

	高見国貞	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和34年3月31日までとする	4. 14
	堀田俊夫	〃	〃
	沢井宗隆	〃	〃
	藤代幸一	〃	〃
	松倉博一	〃	〃
	中性哲	〃	〃
	野村芳郎	〃	〃
	楠 顕 秀	〃	〃
	原富慶太郎	〃	〃
	尾崎 進	〃	〃
	藤井慶輝	講師（文理学部）に採用する 任期は昭和33年9月30日までとする	4. 15
	水牧忠介	講師（工学部）に採用する 任期は昭和34年3月31日までとする	4. 19
	近藤正男	〃	〃
	守津一郎	〃	〃
	浅地 実	〃	〃
	和田喜一郎	講師（経済学部）に採用する 任期は昭和34年3月31日までとする	4. 20
	福田 実	講師（教育学部）に採用する 任期は昭和34年3月31日までとする	5. 16
	今井尚信	〃	〃
	井汲卓一	講師（経済学部）に採用する 任期は昭和33年9月30日までとする	6. 10
	塩谷周三	講師（工学部） 任期は昭和33年9月30日までとする	7. 1
教授（文理学部）	下斗米 晟	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	4. 8
〃（経済学部）	小寺廉吉	〃	〃
助教授（文理学部）	近藤 堅二	〃	〃
〃（工学部）	四谷平治	〃	〃
教育学部附属中学校教諭	布村清太郎	〃	〃
〃	水井謹作	〃	〃
〃	手塚義三郎	〃	〃
〃	篁 ハ ル	〃	4. 8
助教授（薬学部）	松本弘一	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和33年9月30日までとする	〃
教授（工学部）	加藤 正	〃	〃
金沢大学助教授法文学部	鈴木 寛	講師（教育学部）に併任する 任期は昭和34年3月31日までとする	〃
教 務 員 （文理学部実験実習指導員）	藤井昭二	〃	〃
教授（教育学部）	入沢寿夫	講師（文理学部）に併任する 任期は昭和34年3月21日までとする	4. 14
〃	玉生正信	〃	〃
助教授（経済学部）	植村元覚	〃	〃
〃（教育学部）	林 勝 次	〃	〃

教授 (工学部)	浅岡 忠 知	講師 (経済学部) に併任する 任期は昭和 33 年 9 月 30 日までとする	〃
助教授 (教育学部)	林 勝 次	〃 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	〃
講師 (教育学部)	田 中 久 雄	〃	〃
講師 (工学部)	南 日 実	講師 (薬学部) に併任する 任期は昭和 33 年 9 月 30 日までとする	〃
講師 (教育学部)	飯 原 藤 一	〃	〃
非常勤講師 (文理学部)	尾 崎 進	〃 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	〃
〃	藤 代 幸 一	〃	〃
助教授 (文理学部)	永 原 茂	講師 (工学部) に併任する 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	4. 16
〃 (教育学部)	頭 川 徹 治	〃	〃
非常勤講師 (文理学部)	尾 崎 進	〃	〃
金沢大学教授工学部	千 葉 喜 美	〃 任期は昭和 33 年 10 月 31 日までとする	〃
〃	京 藤 睦 重	〃 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	〃
金沢大学助教授理学部	江 田 義 計	講師 (文理学部) に併任する 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	4. 18
金沢大学教授理学部	都 島 文 行	〃	〃
金沢大学助教授理学部	岩 井 隆 盛	〃 任期は昭和 33 年 9 月 30 日までとする	〃
金沢大学助教授法文学部	三 浦 元 俊	講師 (経済学部) に併任する 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	4. 20
京都大学教授工学部	西 原 清 廉	講師 (工学部) に併任する 任期は昭和 33 年 10 月 10 日までとする	6. 18
一橋大学教授法学部	吉 永 栄 助	講師 (経済学部) に併任する 任期は昭和 34 年 3 月 31 日までとする	7. 1
東京工業大学教授	川 下 研 介	講師 (工学部) に併任する 任期は昭和 33 年 10 月 31 日までとする	〃
京都大学教授理学部	田 中 憲 三	講師 (文理学部) に併任する 任期は昭和 33 年 9 月 30 日までとする	7. 6
東京大学助教授 原子核研究所	西 川 哲 治	〃	7. 13
助教授 (工学部)	井 村 定 久	講師 (教育学部) に併任する 任期は昭和 33 年 9 月 30 日までとする	7. 20
千葉大学教授文理学部	吉 武 好 孝	〃	7. 22
講師 (文理学部)	藤 木 興 三	〃	8. 15

学 内 諸 報

火災予防について

大学創立以来曾てなかつた失火沙汰が本年に入つて 4 月と 6 月に相次いで起つた鑑みに、6 月 26 日学長名をもつて各部局、及び関係者に次の通り通告が特発されたので掲げて各位の注意を喚起したい。

学 長 通 告 文

火災の予防については従来から屢々警告を發しその徹底方を依頼して来ましたが、今春以来大学では 2 度も火災が発生し貴重な国家の財産を毀損又は滅失しましたことは誠に遺憾とするところであります。この際各施設、特に火気使用度の多い箇所を徹底的に点検整備されるとともに、下記事項に充分御留意の上火災の未然防止に最善の努力を傾

注されることを強く要望いたします。

記

1. 電気関係

火災の原因中電気関係によるものが相当数占めているので、この際電気配線等の破損箇所の有無を徹底的に調査点検し不良箇所等は速かに修理改善すること。

2. 煙突、かまど等

煙突、かまど等から発生する火災が電気関係以上に多いのであるが、そのうち風呂場等の煙突或はかまどから発生する火災はその殆んどは壁体及、屋根貫通部における施工の不完、構造の不備によるもので、それがため木部過熱という軌を一つにした事情に因るものであるにも拘らず、本学のように連続して出火事故が発生していることは防火に対する心構えがいかに緩いかを実証したもので、この際煙突、かまど等常時火を使用する施設につい

て嚴重な点検を行い不備な箇所は速かに補修等を実施すること。

3. 国有財産の各監守者、防火責任者（補助者も含む）又は警務員、当直者は監守区域、担当区域或は構内の見廻り等を履行厳守し、いやしくも形式的に流れることのないよう充分留意し、火気等扱う箇所は入念に安否を確認すること。
4. 火災による損害は責任者等の処分によつて埋め合せのつくものではなく、現在のように緊縮予算のもとにおいては、焼失した施設の復旧は極めて困難であつて、しいては大学運営上に及ぶ影響が少なくないのである。よつて学校防火については先づ教職員の不断の注意と努力によつて、災害を未然のうちに防止することこそ肝要と思われるから、各教職員はもとより、学生に対してもこの趣旨を十分に徹底し火災防止の実を挙げること。

なお管財の責任者である会計課では特に次の諸点に留意するよう強く要望している。

イ、電気配線の破損老弱の箇所調査発見は勿論、電線器具、設備等に負荷過重の光熱使用の厳禁。使用後のスイッチ、ソケットの開放、切断を厳守して、そのあとを入念に確めること。

ロ、電気設備、煙突、かまど等の損傷、弱体化、構造の不備、施工の不完をこの際、抜本的に調査点検して不良箇所発見の場合は速やかに学部会計係又は本部施設課へ連絡補修の処置を講ずること。

ハ、公務員宿舎の毀損、滅失の場合は宿舎に関する法令により、それが居住者の故意でなくとも重大な過失により生じたものであるときはその居住者はそれを原状に復するか又は、その費用を弁償しなければならないことが規定されているので各居住者は充分注意されたい。

会計検査院の实地検査

本部の新庁舎移転も終つてはつとする間もなく6月30日から7月4日までの5日間にわたつて、会計検査院の实地検査が行われた。昭和30年3月の受検以来3年4ヶ月振りである。来臨の検査官は、検査官、佐藤徳全、守屋実雄、主任、鈴木源一、事務官、鈴木武の4氏である。検査場には新庁舎の会議室があてられた。今回は従来のやり方と趣を変え、本部で総括的な検査を行いながら随時、事に触れては何回となく各部局に往復臨検するという機動的な方法がとられて担当者を面喰させたようである。併5日にわたる検査中に特筆すべき過誤の問題もなく平穩裡に経過したことは担当者、特に会計担当者の日頃の努力と研究の賜というべきであらう。最終日に行われた佐藤主査の講評のうち特に教官と事務側の関係の難しさに触れられたことが印象深い予算の学内配分ということが実施されて以来常に考

えられ、口にせられたことではあるが検査官の口を通して表示せられたところに意義深いものを感じられるのである。工場における技術者と事務員、病院における医師と経営者の間にも共通するものがあり、大学会計事務の根本問題でもあらう。また、これは予算制度に伴う欠陥とも見られるが同じ講評で指摘された効率的な予算使用の面から見た研究用物品購入の適否もつまるところ教官と事務の問題に帰着するのでなからうか。

国有財産の实地監査

大蔵省北陸財務局の国有財産实地監査は7月28日29日の両日国有財産監査官越村幸次、大蔵事務官神代久三郎の両氏来臨のもとに行われた。

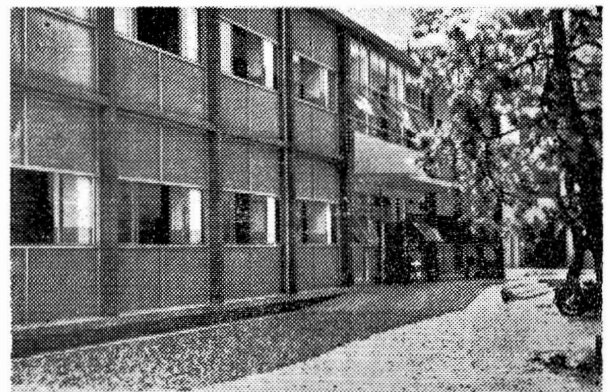
本部庁舎の移転

本部庁舎は本誌12号で既報のとおり昨年10月から工事を進めていたが6月17日竣工した。当日は吉田県知事、栗田県議会議長など地元各界の代表およびこの工事の請負者石黒土木工業株式会社社長を招き、大学側から梅原学長他関係者が参列して盛大に竣工式を挙行した。

建物は建坪125坪延250坪の鉄筋コンクリート2階建て、ガラスの面を多くとり入れ、内外ともに茶と緑と白を濃淡様々に取合せた明るく、洒落たものである。学校の事務所としては異例で立派なものといえよう。特に学長室の如きは、平に砕いた黒灰色の岩石を積み上げたマントルピースを配置し、色彩を避けた木肌そのままのラバン材の板壁、そして屋根裏の梁組を思わせる同じ材で組んだ長格子をあしらつた異色なものである。工費1628万円で総額富山大学設置期成同盟会が世話する地元寄付によるものであることは富山大学の地方的特恵というべく、その特恵の由来するところは畢竟豊富な電源をもつ全国有数の工業県の経済的底气といつていゝであらう。

なお落成式挙行の翌日から各部課前後して移転を開始したが事務職員総掛りの協力の結果、20日には本部全体が平常と変りない執務状態に這入つた。

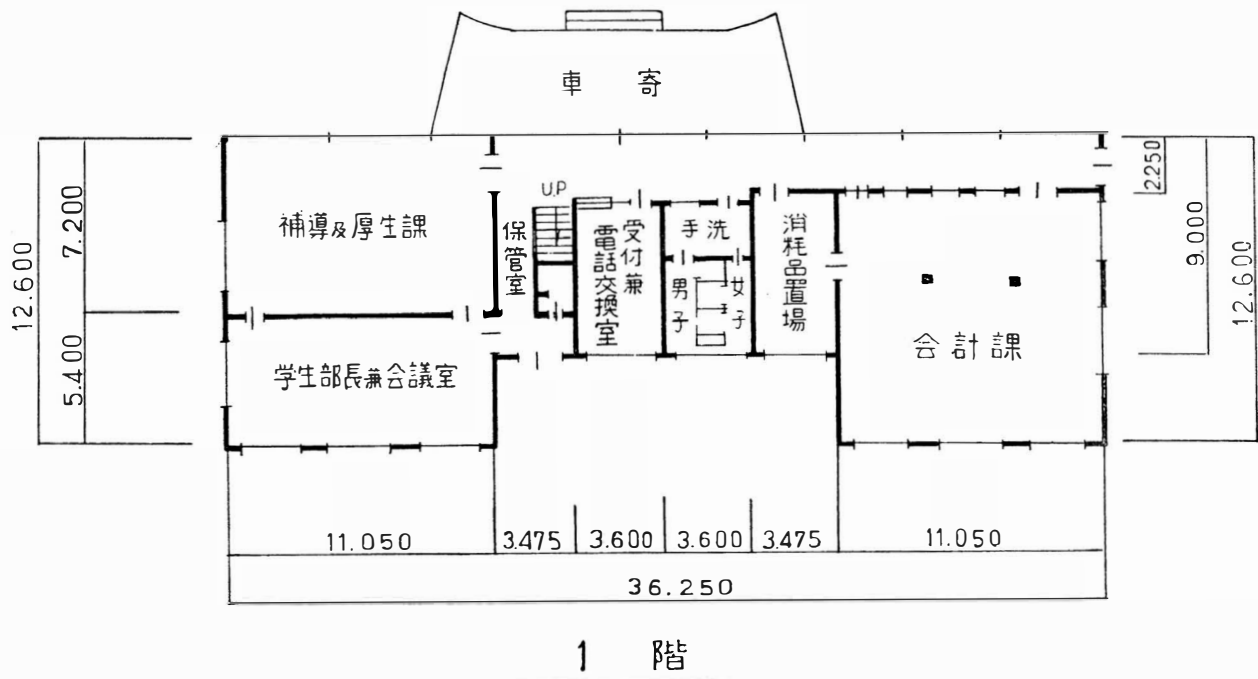
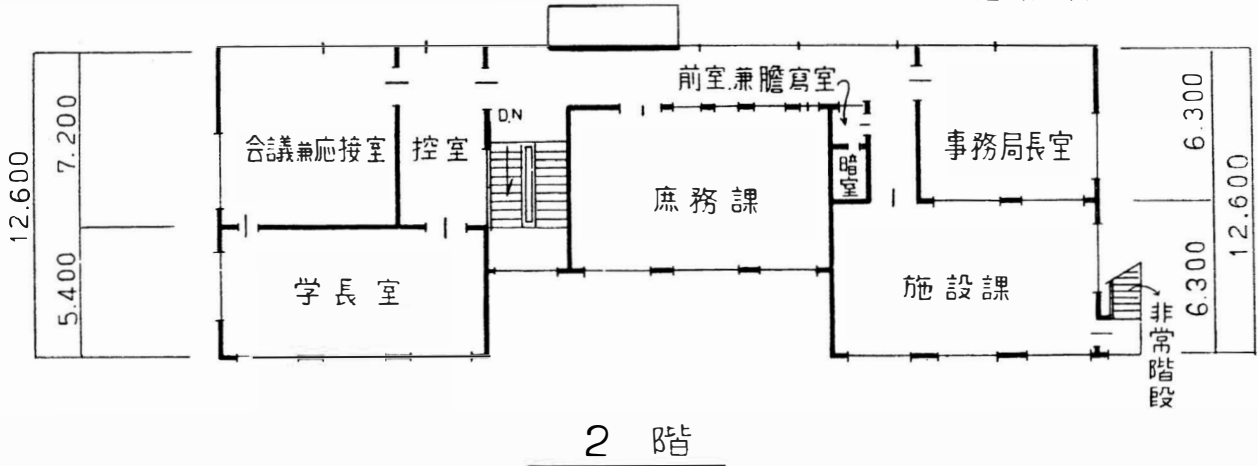
部屋の配置状態は次の図面通りである。





本部 广舎 平面図

鋼筋コンクリート造 2階建
 建坪 124.040 延坪 246.870



昭和33年度文部省内地研究員

本年度内地研究員は 4 月下旬決定本省から次のとおり通知があつた。

期 間	学 部	氏 名	研 究 科 目	研 究 場 所	指 導 教 官
10ヶ月	工 学 部	講 師 葉 山 益 次 郎	塑 性 加 工	東京工業大学理工学部	教授 益 田 森 治
10ヶ月	薬 学 部	助 手 森 田 直 賢	薬 学	東京大学薬学部	〃 柴 田 承 二
6ヶ月	経 済 学 部	講 師 山 崎 佳 夫	会 計 学	神戸大学経済学部	〃 丹 波 康 太 郎
6ヶ月	文 理 学 部	助 教 授 平 田 一 郎	ド イ ツ 文 学	東京大学文学部	〃 手 塚 富 雄
6ヶ月	教 育 学 部	助 教 授 酒 井 康 彦	近代教育理論の 哲学的歴史的基礎	京都大学文学部	〃 高 坂 正 頭

なお昨年は4人であつたが、本年は特に5人の決定を見たものである。このうち10ヶ月組の葉山、森田の両教官は既に出向5月10日から研究を開始し、6ヶ月組の3教官は9月10日から研究開始の予定である。

長期研修者の派遣（薬学部）

今学年に入ってから薬学部では長期研修者として教官2人を相ついで次の如く派遣した。

- 講師 木村正康
- 期間 昭和33年5月16日 — 33年9月30日
- 場所 東京大学薬学部
- 指導者 東京大学教授 高木敬次郎
- 研修課 「アセチルコリン、レセプターの研究」
- 講師 高林昇
- 期間 昭和33年5月12日 — 34年4月30日
- 場所 大阪大学理学部
- 指導者 大阪大学教授 赤堀四郎
- 研修課 「ペプチドの合研究」

小林、小沢、竹内の3教官の海外渡航

助教授小林貞作（文理学部）

4、5年前南米ベネゼイラのカラカスで同僚学会に出席が予定せられながらとりやめとなつたことがあつたが、今回はいよいよ次の通り本決りとなり、8月12日正午上り立山号で多数見送りの裡に富山を鹿島立ちした。

時期 8月16日 — 10月10日

出張先及び目的 カナダ、モントリオール市マツクギル大学で開催の第10回国際遺伝学会議に出席し「放射線誘発突然変異体」についての討論に参加、終つてアメリカ合衆国における放射線遺伝学の作物品種改良への応用を調査研究する。

助教授

小沢慎一郎（教育学部）

一昨年の5月日ソ親善協会の企だてた日ソ文化親善使節団に加つて訪ソのことが予定されたが当時日ソの国交未回復の事情のもと国家公務員の身分でかゝる団体に加わることに疑問があつてか遂に実現するに至らなかつたものである。なお同助教授は12日夜日ソ親善協会側、関係音楽諸団体、大学側の多彩で然も華かな見送りの裡に上京、16日朝ソ連船エレバン号で東京港芝浦棧橋を出航ナホトカ港に向い同港から鉄道ハバロスクに赴きそれより航空機でモスクワに入る筈である。

時期 8月16日 — 10月15日

目的 第2回訪ソ親善使節としてまた音楽教官として音楽文化の交流、音楽教育の実状調査を目的とするものである。特に郷土民謡の紹介も予定しているそうである。なお帰途は欧州各国特にデンマーク、オランダ、ベルギー、フランス、スイス、オーストリア、イタリアを経由してそれ等の国の音楽文化、音楽教育見学視察の遍歴をする筈である。

教授 竹内豊三郎（文理学部）

この出張は例年行われる、文部省在外研究員の募集に応じA項該当（留学期間1年費用全額国庫負担）とし採択されたことによるものである。留学先は米国東北ニューイングランドに所在するロードアイランド州ブランド大学である。同教授が目下心血を注いで努力しつつある研究テーマは、「触媒の表面構造とその活性度（反応性）との関係、解明」であつて、この研究進展段階は、近年急激に進歩した物性論の知識導入を必要とする域に達しているの、これが施設ならびに方法において優秀な研究をもつ同大学が留学の目標となつた訳である。渡航の時期については未定であるが、同教授には上記研究に関連して、採択決定を見た科学研究費交付金（機関研究）による電子顕微鏡廻折装置購入の手配などあつて恐らく秋も中ば過ぎる頃とならう。

なお同教授のこの本研究進行過程において派生的に実を結んだ「アイソトープ応用による潜在指紋の検出」がジャーナリズムの取り上げるところとなつて、問題となつたが遂に9月1日から13日までスイスのジュネーブで開催の原子力平和利用国際会議に上提されることとなつた。この会議に上提のため国内で選考された論文は三百数十編でありこのうち54編が国際原子力会議にもち出されて結局12編が採択上提となつたものである。

併しこの研究成果を説明すべき肝心の同教授は旅費の出途難で出席が出来なくなり、東大牧島象二教授によつて代読されることとなつた。

竹内教授の無念はいうまでもないことであるが、かゝる世界最高にして最大の国際会議に代表を送り得なかつた富山大学にとつても痛恨の極みである。

昭和33年度科学研究費等の交付採択決定

本年度科学研究費等については2月から申請中のところ6月に入つて下記の通り採択決定の通知に接した。なお本年は昨年に比して採択件数は少なかつたが交付金額は各種合計716万円実に昨年の7.5倍である。それは文理学部の竹内教授申請の下記大口分が採択になつたからである。

科学研究交付金（各個研究）

応募申請48人件数53のうち採択となつたもの次の4人4件のみである。

文理学部、物理学科教室 助教授 児島毅
研究課題 「マイクロ波による分子構造の研究（耗波の測定）」
交付額 5万円

工学部 機械工学科教室、助教授 宮尾嘉寿
研究課題 「円板車輪の応用に関する研究」

交付額 5万円
金属工学科教室 教授 森棟隆弘
研究課題 「低品位鉄鉱石の熱送鉄法」
交付額 20万円

金属工学科教室 助教授 位崎敏雄
研究課題 「金属砒化物の冶金学的研究」
交付額 6万円

科学研究交付金（機関研究費）
応募申請2件のうち次の1件が採択となつた。
文理学部 化学教室 教授 竹内豊三郎

研究 「粉体の構造とその化学的性質との関係」
 交付額 650万円 電子顕微鏡回折装置(含真空蒸着装置)購入費であつて本大学初めての高額交付金である。

科学試験研究費補助金

応募申請5件のうち次のものが採択された。

薬学部 薬物学教室 教授 北川晴雄

研究課題 「クマリン誘導体の薬品的応用研究」

交付額 30万円

なおこの他応募申請の科学研究交付金(総合研究)1件
 輸入機械購入補助金2件は何れも不採択となつた。

昭和33年度科学教育研究室の開設

本年度科学教育研究室は5月15日経済学部3階会議室で
 大学側は室長である学長、主事である学生部長、ほか指導
 教官、また県教育委員会からは教育委員、教育長ほか関係
 係員臨席のもとに9名の入室式が行われた。翌16日から開
 始の研究実施の要領は次のとおりである。

昭和33年度富山大学科学教育研究室一覧

学部	学科目	実験 非実験 の別	研 究 生			指 導 員			
			勤務学校	氏名	本籍	生年月日出身学校	全定日の 制制制制 時時時時 定定定定 (1週1日)	期期期期 前前前前 後後後後 のののの 別別別別	研究題目
文理学部	物化	実	富山市大泉町 大泉中学校	堀江良郁	富山県	昭和7年2月28日 富山大学 文理学部理学科	電池における炭素電 極と電解質溶液の界 面の作用機作	助教	中川正之 竹内豊三郎
	生物学	〃	富山市堀川小泉 富山女子高等学校	砂田孝	〃	昭和5年2月8日 富山大学 文理学部理学科	淡水魚の発生の研究 一主としてメダカ を材料にして一	教授	植木忠夫
	生物学	実	高岡市大津 南星中学校	生田信之	〃	昭和6年5月2日 富山大学教育学部	生物教育における視 覚的応用の意義と 効果例について	助教	山口政則
教育学部	化学	〃	射水郡大島村 大島小学校	山崎為雄	〃	昭和2年2月4日 富山大学教育学部 教員養成学科	化学教材を小学校の 課程にとのよように排 列し指導すればよいか	教授	蜷川栄作
	教育学	非実験	高岡市平米町 平米小学校	舟竹孝	〃	昭和5年2月27日 法政大学文学部	教育と道徳の本質的 関係	〃	溝上茂夫
経済学部	人文地理	〃	魚津市友道中 西部中学校	雨池勇	〃	昭和6年3月29日 日本大学法文学部	日本農村社会の実 態究明とその方法	助教	植村元覚
	経済史	〃	婦負郡八尾町 八尾中学校	成瀬昌示	〃	大正12年4月3日 立命館 大学法文学部	郷土産業史	教授	城宝正治
工学部	自動制御	実	高岡市中川 高岡高等学校	舟山保	〃	大正7年10月26日 東京理科大学 理学科	電子演算基本回路の 研究	助教	四谷平治
教育学部	作物学	〃	西礪波福光町 福光中学校	溝口巖	〃	昭和7年3月24日 富山大学教育学部 第2中等教育科	作物の倍數性並びに その利用に関する研 究	助教	一法師頼忠

備考 前期……………5月16日から9月15日まで(8月中は休止)

後期……………9月16日から12月15日まで

昭和33年度単位修得試験

単位修得試験はことしも次の通り実施さるゝことゝなつたべ切の申入数は、137人級別延人員は257人である。試験

科目の区分は (1)一般教育科目 (幼, 小, 中共通) (2)幼稚園小学校の教員課程 (イ)教科に関する専門科目 (ロ)教職に関する専門科目, (3)中学校専門課程, 教科に関する専門科目であつて総べて25科目である。

昭和33年度単位修得試験場所及び試験日時割

試験場所 富山大学経済学部			
時 日	午前 9.00 - 午前 10.30 (90分)	午前 11.00 - 午後 12.30 (90分)	午後 1.30 - 午後 3.00 (90分)
8月19日 (火)	人文科学関係 心理学	社会科学関係 日本史	自然科学関係 生活科学
8月20日 (水)	整 数 (幼, 小) 物 理 (中) 産 業 概 説 (中)	人 文 地 理 学 (幼, 小) 解 折 (中) 職 業 指 導 の 技 術 ()	化 学 総 論 (幼, 小) 算 数 科 教 材 研 究 (幼, 小) 経 済 学 史 (中)
8月21日 (木)	食 品 学 (幼, 小) 体 育 原 理 (中) 英 語 学 ()	体 育 管 理 (幼, 小) 漢 文 学 (中) 衣 料 学 (中)	国 語 学 (幼, 小) 体 育 科 教 材 研 究 (幼, 中) 生 理 学 (中)
試験場所 富山大学教育学部			
時 日	午前 9.00 - 午前 10.30 (90分)	午前 11.00 - 午後 12.30 (90分)	午後 1.30 - 午後 3.00 (90分)
8月22日 (金)	美 術 史 (幼, 小) 音 楽 史 (中)	独 唱 法 (幼, 小) 国 学 (中)	

夏季認定講習の実施

本年度夏季全日制認定講習は7月25日より本学教官を講師として次の日程実施されつゝある。

講 師	担 当 科 目	期 日	会 場	講 師	担 当 科 目	期 日	会 場
毛 利 勉	一般教育文学	7月25.26 28.29	福野中部小	溝上 茂夫	教育原理	7月31 8月1.2.3	八人町小
和 田 徳 一	国 語 学	〃	総曲輪小	林 三 雄	教育心理	〃	定塚町小
加 藤 寿 美 子	調 理 学	〃	呉 羽 中	松 本 利 一	食物, 栄養学	〃	八人町小
丸 山 豊 一	図 画 工 作	〃	総曲輪小	玉 生 正 信	美 術 史	〃	田 中 小
入 沢 寿 夫	中 等 教 育 心 理 学	〃	氷見南小	小 沢 慎 一 郎	音楽教材研究	〃	速 星 中
菅 野 貞 雄	法 律 学	〃	定塚町小	新 田 隆 信	一般教育 憲 法 史	〃	利 賀 小
有 沢 一 男	体 育 教 材 研 究	〃	下 梨 小	佐 口 透	中 国 史	8月5.6.7.8	高 陵 中
黒 坂 富 治	幼 音 楽	〃	青 葉 幼	土 生 滋 穂	一 般 教 育 民 法 学	〃	愛 宕 小
蔵 島 茂 代	代 数 学	〃	定塚町小	神 保 放 牛	国 文 学	〃	高 陵 中
飯 島 敏 春	地 学	〃	〃	見 村 て い	衣 料 学	〃	教 育 学 部
松 為 周 従	数 学 教 材 研 究	〃	小 杉 小	田 中 久 雄	体 育 教 材 研 究	〃	石 動 小
植 木 忠 夫	生 物 学	7月31 8月1.2.4	魚津西部中	高 野 兼 吉	学 習 指 導	〃	出 町 中
				今 井 撤 信	漁 業	〃	水 産 高 校
				吉 田 利 博	成 長 と 発 達	〃	愛 宕 小
				頭 川 基 治	幼 体 育 学	〃	徳 風 幼
				山 淵 夫	生 理 学	8月9.11.12.13	西 田 地 方 小
				金 子 之	体 育 管 理	〃	定 塚 町 小

松田 順吉	国語教材研究	〃	西田地方小	木村両教官が次のとおり学位を取得した。 文理学部 助教授 小 林 貞 作 取得学位 理学博士 提出論文題目 「電離放射線によるゴマの形態学的変化と突然変異体」(英文) 審査者 名古屋大学(理学部) 取得年月日 昭和33年7月17日 薬学部 講師 木 村 正 康 取得学位 薬学博士 東京大学大学院化学系研究科薬学専攻の博士課程の所定単位取得。 提出論文題目「アセナルコリンに対する競合的拮抗的作用に関する研究」 審査者 東京大学(薬学部) 取得年月日 昭和33年6月9日 序に本学の学位取得者を総括すれば次の通りである。
井上 音松	教育原理	〃	定塚町小	
布村 安弘	社会科教育法	〃	西田地方小	
大滝 直平	幼 図 画 工 作	〃	教育学部	
沢 泉 重 夫	物理, 化学, 実験	8月4. 5. 6. 7. 8. 9. 10	高岡産業教育館	
山本 健磨	〃	〃	〃	
蜷 川 栄 作	〃	〃	〃	
福 島 栄 七	生物, 地学, 実験	〃	〃	
山 口 政 則	〃	〃	〃	
深 井 三 郎	〃	〃	〃	

小林, 木村両教官の学位取得

この6月と7月と月を連ねて文理学部の小林, 薬学部の

富山大学教官中学位取得者一覧表

(昭33. 7. 17調)

所属学部	官職	氏 名	取得年月日	授与大学	学 位 名	提 出 論 文 題 名
文理学部	教授	片 山 龍 成	昭 24.11.22	東 北	理 博	磁強性体の磁壁移動速度について
〃	〃	竹 内 豊 三 郎	〃 26. 2. 23	北 海 道	〃	気筒内における燃焼
〃	〃	福 井 憲 二	〃 24. 3. 30	大 阪	〃	炭素不飽和結合の化学的研究
〃	〃	林 良 二	〃 17.11. 5	北 海 道	〃	日本産海星類に関する研究
〃	〃	柴 田 万 年	〃 24. 3. 30	東 北	〃	位相群の線型表現
〃	助教授	小 林 貞 作	〃 33. 7. 17	名 古 屋	〃	電離放射線によるゴマの形態学的変化と突然変異体
教育学部	教授	山 本 健 磨	〃 14. 9. 13	東 京	理 博	結晶の成長に及ぼす水溶液における陽イオンの影響
〃	〃	蜷 川 栄 作	〃 31. 4. 12	北 海 道	〃	尿素樹脂成型粉の成分化合物の定量とその流れに関する研究
薬学部	教授	三 橋 監 物	昭 27. 3. 20	東 京	薬 博	フェナントゲリン誘導体の研究
〃	〃	志 浦 伝 逸	〃 21.11. 8	北 海 道	理 博	アミン類の新アルキル化について
〃	〃	中 沖 太 七 郎	〃 20.10. 3	東京帝大	薬 博	サボナリン, サボナレチン及びヴェテクミンの構造について
〃	〃	横 田 嘉 右 衛 門	〃 9. 2. 19	東京帝大	〃	2オキシ3,5ジニトロフェニル硫酸の合成及び還元について
〃	〃	長 谷 純 一	〃 26. 3. 7	金 沢	〃	2エチル3,6,7,8テトラオキシ1,4ナフトヒノンの合成
〃	〃	北 川 晴 雄	〃 31.11.19	東 京	〃	クマリン誘導体の薬品的研究
〃	助手	高 林 昇	〃 32.10.12	京 都	〃	ピリダチン誘導体の研究
〃	講師	木 村 正 康	〃 33. 6. 9	東 京	〃	アセナルコリンに対する競合的, 拮抗的作用に関する研究
工学部	教授	浅 岡 忠 知	〃 18. 7. 7	東 北	理 博	オレインの無水塩化アルミニウムに依る重合の研究
〃	〃	室 町 繁 雄	〃 30. 7. 7	旅順工大	工 博	アルミニウム合金の連続鋳造に関する基礎的研究
〃	〃	森 棟 隆 弘	〃 29. 7. 6	九 州	〃	硫酸滓の脱銅と顕微鏡組織について

(備考) 理博10 薬博 7 工博 2 計19名

松崎義雄教授の逝去

教育学部松崎義雄教授は昭和30年頃から著しく健康を害していたが、病原不明のまま過していた。その間病軀を推して講義続けていたが、昨秋胃癌と診断された。従来手術も手遅れのまま自宅で療養につとめていた。ところが不思議と病勢一進一退を続けて時には奇蹟と思われる出講すら行っていた。併し7月に入るや病勢改まり遂に11日永眠された。同教授は高岡の出身で大正11年東京帝大物理学科を出るや雄志を抱いて渡満し、同年9月早くも満州医大予科教授となつた。かくて在満30有余年敗戦の色濃い19年朝鮮にわたつて一時京城帝大教員養成所教授など勤めて終戦とともに帰国、昭和22年富山青年師範の講師となつて、変転今日に至つたものである。性剛直、正義観の強い人であつたが、かゝる人に欠け勝ちな思慮の深い人でもあつた。これと対蹠的なユーモラスな一面も備えて、酒興いたらば流行歌をしんみり聞かせる芸も心得えていた。いわば硬軟の両面を併せもつよき人であつた。友情に厚いことはおよそ交りを結んだものの等しく替えるところである。若くして秀才の誉れ高かつた逸材でありながら健康の恵むところならず、存分の活動も出来ずに終つたことはくれぐれも惜まるゝところである。享年61才、葬儀は翌12日辰巳町の興国寺で行つた。全月26日教授の逝去に対し天皇陛下より供物料として金一封を贈られた。

故松崎教授に対する叙位、叙勲

7月11日逝去した松崎義雄教授に対し次の通りの叙位、叙勲の沙汰があつた。

昭和33年7月11日

(文部教官) 従五位 松崎義雄
従四位に叙する

(文部教官) 松崎義雄
勲五等に叙し瑞宝章を授ける

昭和33年7月11日

(文部教官) 従四位 松崎義雄
正四位に叙する

故 文部教官 従四位 松崎義雄
特旨を以つて、位一級追陞せらる。

田屋事務長(薬)の逝去

薬学部事務長田屋世治氏は薬学部同居の大学本部が移転準備の匆忙のさなかの6月6日忽焉として亡なつた。もともと心臓の宿痾を有した人ではあつたが、それにしても前日の退庁時まで常に vari ない姿を見、談笑の声を聞いた翌朝このことを知つてあつといわないものはなかつた。氏は富山郊外宮成の産、高等小学校を出て2年後早くも富山高等学校に奉職、戦時中一時住友金属に転じた外は富山師

範学校から再出発しそれから大学の今日まで35年の長きにわたり学校事務に終始して来た人である。性温厚にして人に対し礼厚く、腰の低さは無類であつた。がそれでいて斗酒を辞せぬつわものであつたとは知らぬものが少なからう。葬儀は6月8日自宅で執行された。享年51才であつた。

黒田氏及び松井建設の表彰

昨秋講堂を寄付した黒田善太郎氏に対しまたその講堂建設工事を請負つた松井建設株式会社(社長松井角平)の正門(五福)寄付に対し今春来表彰方具申中のところ6月18日付をもつて黒田氏には紺綬褒章飾版と7回目の3組木杯(台付)が併賜され、松井建設株式会社に対しては褒状が下賜された。現品は事務局長よりそれぞれ出張の折を利用して親しく手渡された。

昭和33年度大学後援会定期総会

本年度富山大学後援会の総会は本部移転、会計検査など重なつたため1ヶ月以上も遅れて7月16日10時から黒田講堂で開催された。この日天候に恵まれて約150の会員の参加を得た。後援会側からは吉田会長(知事)山森副会長(呉羽町長)の臨席はもとより草野寛正、湊栄吉氏等の理事も顔を見せた。大学側からは梅原名誉会長、吉田、小原五十嵐の各理事はか関係者出席、まづ吉田会長の挨拶あつて山森副会長を議長として議事に入つた。へき頭吉田理事(事務局長)からの事業報告があり、過去1年の施設の工事経過、本年卒業生の就職の状況、本年度入学実績、土地建物の現況などにつき縷々報告、説明があつた。次いで会計議事に入り昨年度決算報告(五十嵐理事)本年度予算の審議に移り異儀なく承認のあと、特に山森議長から会の活動発展の折からこれに応ずる予算拡大のため、来年度入会者から会費を現行1500円から2000円に増額することの提案ありこれを可決した。こゝで役員選挙に移り付託を受けた委員は別室で選考を始めたが、この間梅原名誉会長から一場の挨拶があつた。終つて上記選考の結果発表があつて議事を終了した。続いて会員は3班に分れて構内施設、設備を見学して帰路に着いた。

佐伯富男氏の講演

南極越冬隊員11名中の一人としてあまねく知られた佐伯富男氏を招いて南極越冬一年の貴重な体験を聴く会が6月19日午前10時から図書館四階の視聴覚教室において行われた。同氏は苦心の撮影になる数十枚のスライド映写に話を託しながら諧謔を交えて1時間半にわたつて講演した。これには本部経済学部、図書館それに教育学部の職員多数が参集して、多大の感動を受けた。

因に全氏は富山高等学校24年度の出身で北大農学部を卒業した人であり、教育学部石井逸太郎教授立山遭難の際死体捜索に活躍したことは記憶に新たなところである。父

君は富山高等学校から文理学部の今日にいたるまで大学とは関係の深い立山町芦畔、佐伯静雄氏であつて富男氏はその次男である。

学 生 体 育 競 技

第五回北信越学生軟式庭球競技大会

福井大学庭球部主管にて、五月十日から十二日まで、福井市において開催。女子Aゾーンが優勝した。

第六回北信越地区大学バレーボール競技大会

富山大学排球部主管にて、五月十八日教育学部、県立工業高校並に富山西部中学校に於いて開催。本学は男子チームは次勝、女子チームは三位。

第七回北信越学生柔道選手権大会

信州大学主管にて、六月一日長野県警察学校において開催。本学が優勝、初の全日本学生柔道大会への出場資格を獲得した。

第十回北陸三大学学生総合体育大会

福井大学の所管にて、七月五日から七日まで、福井市において開催。本学より二百六十数名の学生が参加、陸上競技他二十種目について技を競つた結果、本学は卓球(男子)バドミントン(男、女子)ソフトボールに優勝した。

北信越五大学硬式野球大会

七月十二日小松市において開催。敢斗の結果惜しくも敗れた。

第三回北信越大学学生バドミントン選手権大会

八月二日から四日まで、富山大学バドミントン部主管にて、興国人絹パルプ富山工場体育館にて中部日本学生選手権大会を開催。本学は男女とも選手権を獲得した。

第 四 回 大 学 祭

大学祭は恒例の如く、大学学生自治会連合主催、大学後援のもとにことしも5月24日の前夜祭に始まり6月7日の音楽会をもつて終る、次の日程で成功裡に行われた。

前夜祭

5月24日(土)2時から行われた。まづ蓮町から県庁広場にいたるロードレースから始まり仮装行列コンクールその市巾行進、フォークダンス、ファイヤーストームなど次々と行われたが当日は5月下旬に珍しく冷い西風が吹きすさみ裸形の仮装者を震へ上がらせた。

演劇発表会

5月27日午後4時高岡公会堂

5月28日午後5時電気ビル五階ホール

演題 チェーホフ作「結末のない話」

中村光夫作「人と狼」 4幕

第三回学長杯争奪弁論大会

5月28日午後2時文理学部講堂

パネル、デスクッション

5月28日午後3時半文理学部講堂

論題 「新しい時代にどう対処して生きるべきか」

講師 渡植、柿岡、永原の3教官

学術研究発表会

5月29日午後2時経済学部階段教室

岡崎初雄助教授(文)の「ドイツ文学と富山」

竹内豊三郎教授(文)の「放射能による見えない指紋の検出」などの外、学生の研究発表があつた。

講演会

5月30日 午後1時 黒田講堂

講師 嵯峨根遼吉(日本原子力研究所理事)

演題 「原子力の平和利用について」

講師 中野重治(作家)

演題 「内の動きと外の動き」

国際親善デー

5月30日、31日 留学生数名を招いて歓迎、親善の集いを催す傍ら、女子、商業の両高校、魚市場、工場などを見学せしめた。

空手演武会

5月30日午後1時 文理学部講堂において

ダンスパーティー

5月29日午後6時 工学部講堂

5月30日午後6時 文理学部講堂 楽団L. R第2バンド
出演留学生参加

映画祭

5月31日午後2時 黒田講堂

イギリス、フランス、オランダ、スウェーデン、インドその他アジア諸国から提供された記録、文化映画上映。

大学祭球技大会

5月31日(土)

1. バレーボール 教育、グラウンド

2. ビンポン 〃 卓球場

3. ソフトボール 〃 グラウンド

4. バスケットボール 〃 体育館

音楽会

6月7日午後6時 富山市公会堂

独唱、合唱、器楽演奏、管絃楽演奏など

レコードコンサート

6月2日午後6時 高岡図書館、解説、加茂龍雄

教養教室

5月27日29日 新湊、福野、桜井、八尾、小杉諸高校において各学部教官学生出席のもとに行われた。

展示会

5月27日~29日 富山商工奨励館で写真、書道、美術の作品が展示された。

文部省共済組合北陸東海地区体育大会

掲記の大会は回を重ねること8回、ことしは8月1.2の両日岡崎市において愛知学芸大学が当番司会のもとに行わ

れた。競投の種目は例により軟式野球、軟式庭球、硬式卓球、バレーボール、ソフトボールの5つで参加者は金沢、福井、岐阜、名古屋、名古屋工業、三重、愛知学芸、富山の諸大学に名古屋工事事務所である。会場は愛知学芸大学の諸施設及び岡崎公園グラウンドが当てられた。当大学の出場選手は50人である。

両日を含む数日は本夏において最高の気温を示した時期であつたが、出場選手はこの炎暑にもめげず文字通りの熱戦を展開した。岡崎市はかゝる規模の催であるにかゝわらず街をあけて歓迎の意を示し選手はいつでも好感を懐いて帰来した。戦績は次の通りである。

野 球

2日間2会場で行われたが本大学は第2会場愛知学芸大学グラウンドでの名古屋大学との1回戦で8対1という大スコアで惨敗した。優勝戦は本学を敗つた名大と学芸大学の間で行われ、後者が1対0をもつて優勝した。

庭 球 2日間、岡崎公園グラウンド、コート

本大学は2つのゾーンに別れたリーグ戦においてBゾーンで戦い、岐大、名大に敗れてこのゾーンの最下位という惨さであつた。

優勝戦は金大と学芸大との間で行われ金大が3対2で優勝した。

卓 球 2日間、愛知学芸大、附属中学校

3つのゾーンに分れたリーグ戦のCゾーンで戦つた本学は学大に3対2で勝つたが、工大には4対1で敗れ、第3位で優勝を争ふトーナメント戦に出場が出来なかつた優勝は工大を4対1で敗つて、金大の獲得するところとなつた。

排 球 2日間、岡崎公園グラウンドコート

本学は2つのゾーンに分れたリーグ戦のAゾーンに属し金大、名大に何れも2対0で敗れ、工大には反対に2対0で勝ち第3位となり、これもトーナメント戦への進出が出来なかつた。優勝戦は福井、名大の間で行われ2対0で福井が優勝した。

ソフトボール 学芸大本部広場、学芸大附属中学校、出場チームは脱落者多く、結局岐大、工大、福井、富大の4者で競われ岐阜が本大学を敗つて優勝した。本大学と対戦大学とのスコアは次の通りである。

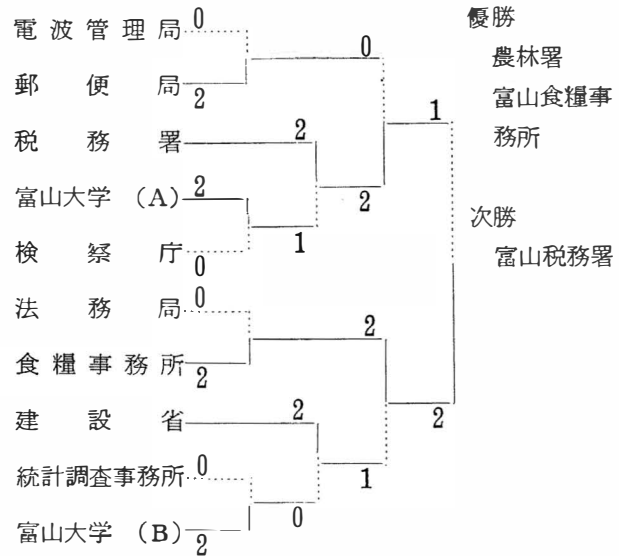
- 富大 — 工大 11対8
- 富大 — 岐大 5対7

富山地区公務員R連盟行事

排球大会

6月24日五福大学コートで行われた。この日決晴でコートを囲むグラウンドの刈草のあと清々しくそのはてに遠く近く見える校舎のたゞすまいなどの好環境に出場の選手は快さを禁じ得ないものゝ如くであつた。出場チーム10、職員多数を要する当大学は特に2チーム出場を許された。

併2チームとも2回戦で破れ去つた。戦績は次の通りである。



ソフトボール大会

排球大会会場の好評に、この大会にもとの切望があつて再び五福大学グラウンドが会場となつた。この日も11号台風の上陸に際会したが時間のづれで2日目の最終決勝戦あたりからやゝ風が強くなつた程度で、まづまづの好天であつた。出場チーム18の多きに達し2チーム出場の官庁も2つあつて大学もそのうちの一つである。優勝戦は電波管理局と法務局の間で行われ、法務局が優勝した。

本学2チームは1回戦に早くも惨敗した。その戦績は次のとおりである。

Aチーム

	1	2	3	4	5	計
税務署	4	1	0	5	1	11
大学(A)	0	0	0	0	0	0

Bチーム

	1	2	3	4	5	6	7	計
郵便局	3	0	0	3	0	1	0	7
大学(B)	0	0	0	0	0	2	0	2

部 局 情 報

教育学部文理学部と併設される教育学部の学部長会議開催

7月17、18日の両日にわたつて文理学部と併設される教育学部の学部長会議が本学教育学部の会議室において開催された。中央から本省大学學術局教職員養成課長(代理係長、藤森七郎氏)日本教育大学協会長村上俊亮氏(代理)臨席のもとに北は山形大学、南は鹿児島大学の学部長等15

名が参加した。本学からは梅原学長も開会に当つて一場の挨拶をした。

会議は17日中に大かた討論審議を終えて、当日夕刻会場を宇奈月温泉延対寺荘に移し翌18日は遠来の客にお国自慢の黒部狭谷を紹介しようと樺平まで案内し、懸崖、激湍の幽すい境に涼味を満喫せしめた。

この会議は会名の如く文理学部と併設の教育学部長会議であるから当然宿題となつている両学部の重複、競合の問題にも触れ、また教員養成制度の改革に伴う教育学部のあり方について論議せられた。即ち組織、定員の面について教員養成学部としての一般教育のあり方について、その他小学校、中学校教育課程の改正に伴う諸対策、2年制の存廃、その募集方針、教育実習、教科専門科目開設の実状、そして就職対策などが議題となつた。15名の出席学部長等は次の通り。

- 東京学芸大学事務局長 宮崎 巖 (代理学生課長、大和田正衛)
- 弘前大学教育学部長 今井六哉 (欠席)
- 山形大学 “ 島津秀雄
- 茨城大学 “ 二方 義
- 埼玉 “ “ 平田政雄
- 千葉 “ “ 小木曹恩
- 信州 “ “ 松原益太
- 静岡 “ “ 山岸五平
- 島根 “ “ 松本 博
- 山口 “ “ 荒木精一
- 愛媛 “ “ 重松信弘
- 高知 “ “ 村上徳美
- 佐賀 “ “ 華岡鋭蔵
- 鹿児島 “ “ 有馬純次
- 富山 “ “ 渡辺重雄

(文責編撰者)

教育学部日誌

- 4月18日(金) 日本教育大学協会北信地区評議会及び第一部会(松本)
- 20日(日) 附属小学校講堂落成式(前号詳細登載)
- 5月12日(月) 日本教育大学協会北信地区第二部会職業指導科研究協議会(福井)
- 16日(金) 北陸地区教員養成学部事務長会議
- 17日(土) (福井)
- 25日(日) 通信教育終末考査
- 28日(水) 学生、教職員定期身体検査(レントゲン間接撮影)
- 6月5日(木) 全国職業教育協会総会(東京)
- 6日(金) 全
- 7月11日(金) 昭和33年度理科学器械修理技術講習会(金沢)

- 17日(木) 文理学部と併設されている教育学部の学
- 18日(金) 部長会議(本学部)
- 22日(火) 昭和33年度農業教育指導者養成講座講習会(東京)

文理学部日誌

- 33. 4.16 学部教授会並に原富先生送別会
- 4.21 小原庶務課長来部、職員と懇談
- 4.30 学部教授会
- 5. 7 一般教育委員会
- 5.28 一般教育委員会。学部補導委員会
- 6. 3 工学部補欠人学生入学式及びオリエンテーション
- 6. 4 学部教授会
- 6. 5 レントゲン間接撮影
- 6. 6 全
- 6.11 佐伯富男氏(南極観測隊員)講演会開催。学部補導委員会
- 6.12 立山研究室開設委員会
- 6.17 寮生と補導委員会委員との懇談会
- 6.18 教授のみの教授会
- 6.19 定期身体検査
- 6.27 職業補導委員会
- 7. 8 腸、バラチブス予防接種
- 7. 9 全
- 学部教授会
- 7.18 教授のみの教授会
- 7.23 文理学部概覧編撰委員会

経済学部就職概況

昭和三十三年三月、本学部の卒業生数は、百二十七名(男子のみ)、内進学希望者は三名、家事従事者五名で就職希望者は百十九名であつた。秋の就職シーズンには、未だ前年末の経済界好調の波を受けて、求人が多く、就職一丸の努力が実を結んで、その悉んどが、年内に就職先の決定を見、年度末には、完全就職の好成績を挙げる事が出来た。以下概況を述べて見る。

求人先については、昨年十月一日推薦、十日採用試験開始に対し、通知を受けた会社、事業所は、七月に早くも一七、八月に三五、九月に六九、十月には三五、十一月に一四、十二月に五、計計一七五件、その他縁故による四〇件を加え二一五件の多きに達し、之を地区別にして、京浜方面七一、阪神四九、名古屋地区二五、北陸地区六八、北海道二、となつている。

更に、業種別に見て

建設業五、水産業二、製造業の内印刷出版一〇、紙繊維が一七、化学工業一五、金属九、機器一九、電機一〇、食品一、計八一、販売業五〇、金融業の内銀行二一、証券三、保険一二、計三六、公益事業一六、サービス業八、公務七、計二一五であつた。

以上の求人に対し、十月十日からの採用試験開始の結果は、一流会社への内定が予想外に好況を示し、その実力が認められ、例年がない、就職好調の波に乗った。

即ち 十月中には早くも、四十八名の決定を見、引続いて十一月に四十四名、十二月に十三名、計年内決定者は百五名、一月四名、二月三名、三月七名で全員就職が完了した。

之を業種別に見て、販売業、及び金融業は圧倒的に従来の伝統をついで、約四割を示している。即ち漁業二、建設業四、製造業の内化学工業が九、金属業二、機械工業九、その他一八、計三八、販売業は卸売、小売を含めて二五、金融業には、保険、証券を加えて二三、運輸通信その他公益事業関係に一七、サービス業に四、公務従事が六、となつている。

更に之を就職先の地区別に表示すれば、

京浜地区	三二	阪神地区	一五
名古屋地区	五	北陸地区	六四
その他	三		

出身府県の関係もあつて、約半数は郷里に就職した事になつた。

就職決定者一一九人の就職先の規模については、本県内の大会社、大事業場の繁盛を反映して、大企業に入つた者が六割余となつている。五百人以上の大企業へは七一人、五百人以下の中小企業へは四八人、となつた。

本年の就職状況は未だに予断を得る事は困難であるが、景気後退と業界不振の波に押されて、求人数は昨年より半減しないかを、特に考慮し、早くから之が対策を立て、先ず、父兄会を招集し連絡を密にし、学部総力をあげて、求人先の開拓を続行している。更に元高岡高等商業学校の同窓先輩とは、各地区共、同窓会(越嶺会)関係を通じ連絡を密にして、今年も昨年同様、好成績をもつて、完全就職を収めたいと希望している。

特 別 寄 稿

米国の“産学協同”を視察して

工学部長 横山辰雄

私は昨年の秋から冬にかけて、日本生産性本部によつて米国に派遣された産学協同専門視察団の一員として渡米し米国の産学協同の状態即ち産業界と大学の協力の状態を視察して来たので、その一部分をここに記す。

先づ視察団の構成を記すと、団長が名古屋工大の清水学長、幹事が東大越教授及び早大難波教授、あとは平岡員という訳で横浜国立大阿部教授、京大石原教授、東京工大永廻教授、室蘭工大賀学長、慶大宮工学部長、阪大植松教授、九大和田教授、それに私と総計11人であつた。これに対して米国では連邦政府の国際協力局(International

Cooperation Administration 略称工 C A) が主になつて受入れてくれた。

訪問箇所の主要なものを次に記す。サンフランシスコ地区でサンフランシスコ市役所、スタンフォード大学、スタンフォード研究所。ロスアンゼルス地区でカリフォルニア工科大学、U C L A (University of California at Los Angeles)。シカゴ地区でノースウエスタン大学、バリントン町における或る高等学校、クエーカーオーツ会社、イリノイ大学、ウエスタンエレクトリック会社、ダンリー機械会社、アーマー研究所。シンシナ地区でシンシナチ大学シンシナチミリングマシン会社。ピッツバーグ地区でカーネギー工科大学、ウエスチングハウス会社、メロン研究所。ニューヨーク地区でコロンビア大学、ブルックリン工科大学、国連。ニューヘヴンでエール大学。ボストン地区でマサチューセツ工科大学、ノースイースタン大学。ワシントン地区でジョージワシントン大学、ICA、標準局(Bureau of Standards)。



以上のような所をまわつて見たりした結果私のいただいた感想のうち主なものを大雑把に言えば、米国では産業界が工業教育(大学程度)に実によく協力していて、その有様は驚くべき程である、ということになる。産業界と大学が“協力”している、という訳だが、その協力は両者が互に同程度に協力しあつていなくてはなくて、産業界の大学若くは教育に対する協力の方が大学の産業界に対する協力よりも大分強いように見受けられたのである。

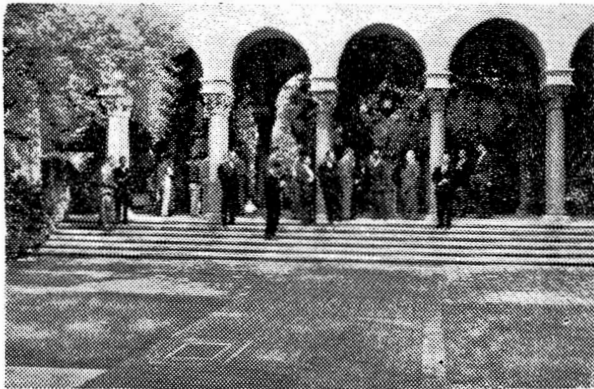
然らば産業界の協力ぶりはどんな具合かという、その若干につき概略を記せば、

1. 産学協同教育制度 (Cooperative Educational program)

この制度は 1906 年シンシナチ大学の当時の工学部シュナイダーによつて始められたもので、主目的は学問と実地の技術とを兼ね備えた人間をつくらうというのにあり、そのため、大学内における教育と工場等における実地体験とを交互に繰返す制度で、Sandwich Program等とも呼ばれる。方法の詳細は大学により異なる、5年制が普通だが5年半又は6年の所もある。どの大学でも最初は大学で或る

期間教育を施し、然る後、工場、大学、工場、大学……と週期的に繰返して行く。最初の大学内で教育する期間が途中の週期その他は大学により異なる。

この制度では大学側も随分面倒を見ているが、会社側はそれ以上だと言わねばなるまい。何故かというに、学校というものは元来教育を行うために出来ているものだから学校がこの種のプログラムにおいて色々の面倒を見るのもその天職の一つだと言い得るに反し、会社は元来は営利のために出来ているものだから会社が教育の片棒をかつぐのは餘程の協力だと言い得るからである。会社は指導者をつけて学生の教育をしながらかせさせる。而して学生に対して給



料をしはらう。その額は相当多額であつて、学生が親の世話にならずに大学教育を受け得る（勿論贅沢はできないだらうが）ということがこの制度の長所の一つと教えられている程である。尚、学生の卒業後の就職については会社は別段制限をつけない。就職先は学生の意に任せる。

以上の如き制度を実施している大学並びにその相手となる会社が相当多数ある。

2. Scholarship 及び Fellowship

州政府や市政府或は個人、又、大学自体等からも出しているが、産業界からも多額のスカラシップ、フェローシップが提供されている。フェローシップの場合、会社は学生（大学院学生）に学資を出すのみならず、学生の研究のための費用としてそれと同額又は半額等の寄附を大学に対してする。大学院学生の多い大学ではこの寄附が相当大きな助けになつている。

3. 工学学生及び教師の夏季雇傭

最近上記雇傭が盛になつて来ているという。その原因のうち大きなものとして産業界が学生や教師の生活を助けようという強い意図を持っているという事が挙げられる。

4. 設備や研究費の寄附

研究や教育の設備の寄附が最近盛に行われ、殊に会社の製品の寄附は宣伝にもなるので喜んで行われるという。又基礎科学の研究に対する研究費の寄附も盛になつて来ているという。これはその研究結果が直接出資会社の役に立つという性質のものではない。（直接研究結果を利用したい場合に対しては、いわゆる契約研究がある）。

以上に略述したように米国の産業界は非常に大学を援助している。而してその理由は、勿論営利会社の事だから全く利益を無視している訳でもあるまいが、少く共、教育や基礎研究に対する出資が直ちに自分の所に利益をはねかえらすものでない事は十二分に承知しており、産業界が大学卒業者をその主要構成員としている以上その教育その他については産業界も責任を感じ努力すべきだとの自覚を強く持つている事にあるようである。

主 要 日 誌

(本部)

- 4月18日 学長選考基準 1 部改正小委員会
- 4月²¹/₂₃日 庶務職務内容調査
- 4月24日 認定講習委員会
- 4月25日 学長選考基準 1 部改正小委員会
〃 第二回評議会
- 26日 事務協議会
- 30日 附属小学校体育館落成式祝賀会
- 5月 8日 アジア財団ホール博士来学
- 10日 事務協議会
- 13日 原子力同位元素委員会
- 15日 富山大学科学研究室入室式
- 16日 第三回評議会
- 26日 認定講習委員会
- 30日 事務協議会
- 31日 北陸経済研究所開所式
- 6月13日 認定講習委員会
- 17日 本部庁舎竣工式（富山大学設置期成同盟会寄贈）
- 18日 本部新庁舎へ移転
- 6月21日 午後 4 時 20 分頃西田地方渡辺教育学部長宅より出火
- 6月30日（7月4日） 会計検査院会計実地検査
- 7月12日 学部長会議
〃 第四回評議会
〃 教育学部松崎教授葬儀（辰己町興国寺）
- 16日 富山大学後援会総会
- 21日 持廻り評議会
〃 事務協議会
- 25日 持廻り評議会
- 8月 5日 学部長会議
〃 人事院人事記録実施状況監査
- 12日 文理学部小林助教授（カナダ、アメリカ出張）教育学部、小沢助教授（訪ソ）何れも富山出発
〃 事務協議会
- 18日 第五回評議会
- 19~22日 文部省委託昭和33年度単位修得試験実施